



(写真) @Maria Corina Machado 氏 X “MCM 氏の移動車 2 台 深夜に与党支持者が攻撃?”

2024年7月17日(水曜)

政治

- 「[ゴンサレス候補 地方演説を欠席](#)
～癌など重篤な病気を否定、皮膚病が理由?～」
- 「[MCM 氏に対する嫌がらせ続く](#)
～セキュリティ対策長拘束、車ブレーキ破壊～」
- 「[伯 ベネズエラに選挙監視員 2 名を派遣](#)」
- 「[カベジヨ PSUV 副党首 PP 監視団派遣を拒絶](#)」

経済

- 「[24年6月 銀行融資額は約20億ドル相当](#)」
- 「[Bloomberg 大統領選前に PDVSA 社債の需要増](#)」
- 「[Chevron 合弁会社の操業 2050年まで可能](#)」

2024年7月18日(木曜)

政治

- 「[7月17～18日 選挙キャンペーンまとめ](#)
～MCM 氏 ポルトゥゲサ州で選挙演説～」
- 「[軍部 選挙当日に使用する資材の配布を開始](#)」
- 「[ラッティ氏 ゴンサレス候補の出馬禁止申請](#)」

経済

- 「[Pampero イタリア酒造会社を買収される](#)」
- 「[TT ConocoPhillips の差し押さえ権を再認](#)」
- 「[融資増加でコメ・トウモロコシ生産が拡大](#)」
- 「[大統領選を前にドル供給が増加](#)」
- 「[アンソアテギ州で PDVSA ガスパイプが爆発](#)」

2024年7月17日（水曜）

政治

「ゴンサレス候補 地方演説を欠席

～癌など重篤な病気を否定、皮膚病が理由？～

与野党の選挙キャンペーンについては、本稿「7月17日～18日 選挙キャンペーンまとめ」で紹介したいが、7月17日にマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）とゴンサレス候補は、ポルトゥゲサ州で選挙イベントに参加する予定だった。

しかし、ゴンサレス候補はポルトゥゲサ州の選挙イベントを欠席。MCM氏のみが同イベントに参加し、ゴンサレス候補はMCM氏が持っている携帯でビデオ出演するのみに留まった。

ゴンサレス候補が「野党統一連合（MUD）」の推薦候補者になった当初、ゴンサレス候補は重篤な病気を患っているのではないかとの噂が報じられ、与党「ベネズエラ社会主義統一党（PSUV）」のカベジョ副党首も度々、ゴンサレス候補の体調について指摘していた。

しかし、この1か月ほどゴンサレス候補が積極的に外出していることもあり、そのような懸念は下火になっていたが、今回の一件で再びゴンサレス候補の体調不良を指摘する声が出ている。

特に一部のソーシャルメディアアカウントでは、内部関係者から得た情報として

「ゴンサレス候補は癌のため選挙キャンペーンを断念せざるを得なくなった」と報じている。

他、与党系ジャーナリストのペドロ・カルバハリノ氏も同様の指摘をしている。



（写真）@ElNoticieroVe

“ゴンサレス候補の癌を報じるメディア投稿”

この状況を受けて、ゴンサレス候補は自身のソーシャルメディアアカウントに動画を投稿し、癌の噂を否定。選挙イベントを欠席した理由について、腕のシミをみせて、「毛細血管の問題」と説明した。

確かにゴンサレス候補の腕にはちょっとしたシミがあるが、ゴンサレス候補の数少ない地方遊説をキャンセルする理由になるのかは疑問であり、釈然としない印象は受ける。



（写真）@EdmundoGU

“ポルトゥゲサ州遊説キャンセルの理由となった

腕のシミみせるゴンサレス候補”

「MCM 氏に対する嫌がらせ続く

～セキュリティ対策長拘束、車ブレーキ破壊～」

「[ベネズエラ・トゥデイ No.1089](#)」「[No.1090](#)」とマドゥロ政権による野党陣営への嫌がらせについて紹介しているが、現在もマドゥロ政権の野党に対する圧力は続いている。

7月17日 MCM 氏は、彼女のセキュリティ対策長を務めている Milciades Ávila 氏が逮捕されたと訴えた。



(写真) @vivoplay

MCM 氏によると、Milciades Ávila 氏は10年前からMCM 氏と関係があり、現在はセキュリティ対策長として全国の移動に同行していたという。

しかし、同日の早朝にマドゥロ政権関係者が「女性への暴行」を理由に逮捕したという。

問題となっている「女性への暴行」は、7月13日の出来事。

同日、MCM 氏とゴンサレス候補はアラグア州で行われた選挙イベントに参加した。その際に、与党支持者と思われる女性3名がMCM 氏および野党関係者らを批判。

これに対して Milciades Ávila 氏がセキュリティ対策長としての役割を果たしたことが理由だったという。

MCM 氏は、Milciades Ávila 氏および、これまでにマドゥロ政権に拘束されている野党関係者24人の安全を保障するよう求めている。

また、翌日の7月18日 MCM 氏は動画を投稿。「マドゥロ政権のエージェントから攻撃を受けた」と訴えた。

MCM 氏は、ポルトゥゲサ州での選挙イベントを終え、7月17日夜はララ州の州都バルキシメトで宿泊したが、同日の夜間に何者かが MCM 氏の移動車2台にペンキで落書きをした。

車には「No + (mas) Bloqueo」(制裁をやめろ)と書かれており、与党支持者ということになるだろう。また、2台のうち1台の車はブレーキが破壊されていたという。



(写真) @dsmolansky

「伯 ベネズエラに選挙監視員2名を派遣」

7月17日 ブラジルの「選挙高等裁判所(TSE)」は、選挙監視員2名をベネズエラの大統領選に派遣することを決定した。

ブラジル外務省によると、ブラジルから派遣される選挙監視員は、TSEのSandra Damiani 選挙手続部長、同じくTSEのJosé de Melo Cruz 選挙システム・コーディネーター長の2名だという。

ブラジルは6月にベネズエラの大統領選に選挙監視団を派遣しないと発表していたため、方針を変更したことになる（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1072](#)」）。

TSE・ブラジル外務省は今回の方針変更の理由について説明していない。

とは言え、方針変更の理由は何となく推察できる。

6月当時、CNEはEU選挙監視団への大統領選招待を撤回しており、国際的にベネズエラの大統領選をサポートしない風潮が強かった。

しかし、7月にマドゥロ政権と米国政府が直接交渉を実施。大統領選の認識について米国政府と一定の合意が交わされたため、ブラジルがその流れに応じて監視員を派遣したと思われる。

なお、コロンビア政府もベネズエラの大統領選に選挙監視団を派遣する方向で検討を進めているという（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1090](#)」）。

「カベジヨ PSUV 副党首 PP 監視団派遣を拒絶」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1090](#)」にて紹介した通り、スペインの「国民党（PP）」は、ベネズエラの大統領選に選挙監視団を派遣すると発表していた。

PPは、選挙監視団の派遣は、MCM氏およびゴンサレス候補からの招待によるものだと説明している。

7月17日 与党PSUVのディオスダード・カベジヨ副党首は本件について言及。

「スペイン人が我が国の選挙に来ると言っているようだ」「彼らを歓迎する者は誰もいない」「彼らはベネズエラを植民地だと思っている」とコメントした。

PPはラホイ政権下でマドゥロ政権への国際圧力強化を強く求めた政党であり、マドゥロ政権とPPの関係は非常に悪い。

EU選挙監視団がベネズエラの大統領選に来ることができない状態でPPが大統領選に参加する可能性は限りなく低く、PPもそれは認識していることだろう

経 済

「24年6月 銀行融資額は約20億ドル相当」

現地金融コンサルタント会社「Aristimuño Herrera & Asociados」によると、2024年6月末時点の融資額は約728.3億ボリバル。

公定レートで換算すると約20億ドルだという。

2023年6月末時点の融資額（ドル換算）は、約10.2億ドルだったので、前年同期比95.1%増。

2023年末時点の融資額（ドル換算）は、約14.7億ドルで、この6カ月のうちに36.9%増ということになる。

ここ1年ほどベネズエラ国内の融資が増加しており、融資増が経済回復の要因となっている。また、融資増はボリバル安を加速させ、インフレを進めるネガティブな側面があるが、制裁緩和などで外貨流入が増加しており、両替市場へのドル供給が増加しているため為替レートは安定し、インフレも落ち着いている。

なお、融資額が多い銀行ランキングは以下の通り(ポリアル建て)。

最も融資額が大きいのは「Banco de Venezuela (BDV)」で融資総額の30.7%を占める。

その後、「BBVA Provincial 銀行」が同15%、「Banesco」が同10.9%、「Mercantil 銀行」が同9.9%と続き、上位10行で融資総額の92.5%を占めていることになる。



(写真) Bancaynegocios

「Bloomberg 大統領選前に PDVSA 社債の需要増」

「Bloomberg」は、大統領選を前に PDVSA 社債の需要が増加していると報じた。

「William Blair & Co.」「Gramercy Funds Management」「Auriga Global Investors」などの投資ファンドは、ベネズエラ国債よりも安い価格で取引されている PDVSA 社債に投資を行っているという。

これら投資ファンドは、債務再編が行われる際には、ベネズエラ国債と PDVSA 社債は似た条件になると考えているという。

「Lazard Asset Management」の Arif Joshi マネージャーは、「債券保有者は、PDVSA が実質的にルールから外れることはないと楽観視しており、ベネズエラ国債との価格差は利益になると考えている」とコメントした。

「Gramercy Funds Management」の創設者である Robert Koenigsberger 氏は、「ベネズエラは資本市場へのアクセスを求めている」「融資文化がある国であれば、債券保有者の権利を侵害することはないと考えている」と債務再編時の交渉に楽観的な見通しを示している。

「Chevron 合弁会社の操業 2050年まで可能」

7月17日 与党国会は、「Chevron」が34%資本参加している PDVSA との合弁会社「Petroindependencia」について、オペレーションを継続する権利を15年延長することを承認した。

「Petroindependencia」は、カラボボ州北部に2010年に設立された合弁会社で、当時25年間のオペレーションが確約されていた。

つまり、これまで2035年までオペレーションが許可されていたが、今回の延長により2050年までオペレーションが許可されたことになる。

また、与党国会は「Petroindependencia」に関する政令の修正も許可。

ホルヘ・ロドリゲス国会議長によると、これまで同社は原油採掘期間の延長に関する税金支払いを免除されていたが、今回の政令改定により、「Petroindependencia」は原油採掘期間の延長にかかる税支払いが義務化されることになったという。

2024年7月18日(木曜)

政治

 「7月17～18日 選挙キャンペーンまとめ
～MCM氏 ポルトゥゲサ州で選挙演説～」

以下では7月17日～18日の与野党候補の選挙キャンペーンの動向を紹介したい。

7月17日 MCM氏はポルトゥゲサ州 Guanare を訪問し、支持者らを前に演説を行った。下写真の通り、かなり多くの人が集まっているように見える。

なお、前述の通り、ゴンサレス候補も同イベントに出席予定だったが、体調不良を理由にイベントを欠席。オンラインでイベントに参加することになった(右上写真)。



(写真) @ConVzlaComando

7月18日は、特段の活動はしていないが、前述の通りカラカスへの移動で立ち寄ったララ州バルキシメトにて移動用の車2台が攻撃される事件が起きており、マドゥロ政権による迫害を訴えている。



(写真) @unidadvenezuela

7月17日 マドゥロ大統領は、カラカスにて、公務員による選挙応援イベントに出席。ゴンサレス候補が当選した場合、民営化が進み、公務員が解雇されると警鐘を鳴らした。





その後、 Lara州に移動し、カローラ、バルキシメトで開催された選挙イベントに出席した。



翌7月18日にはカラカスに戻り、起業家を対象としたビジネス見本市を視察。起業を促進するための融資制度拡充を約束した。

その後、ペタレ地区に移動し、選挙イベントで支持者に投票を呼び掛けた。



(写真) 全て大統領府

「軍部 選挙当日に使用する資材の配布を開始」

「国軍戦略オペレーション司令室 (CoeFanb)」のドミンゴ・エルナンデス・ラレス総司令官は、7月28日の大統領選で使用する資材の配布を開始すると発表した。

選挙当日まで既に10日を切っており、選挙戦は最終盤に入っている。

選挙の準備進捗状況について、「選挙管理委員会 (CNE)」の Aime Nogal 役員は、「選挙スケジュールの進展状況は84%」と言及している。

あと10日で16%残っているというのが普通のことなのかは不明だが、選挙を延期するという話は現在のところ出ていない。

「ラッティ氏 ギンサレス候補の出馬禁止申請」

独立野党を自称するルイス・ラッティ氏は、CNE に対して「野党統一連合 (MUD)」から出馬しているエドムンド・ギンサレス候補の出馬を取り消すよう要請した。

ラッティ氏はギンサレス候補の体調不良を理由に選挙出馬を停止するよう求めている。

ラッティ氏は「彼は選挙に出馬できる体調ではない」「彼の体調に何かあった時の責任は MCM 氏にある」と指摘した。

なお、ラッティ氏は、MUD の政党解体を申請するなど、野党陣営への妨害を続けている。しかし、ベネズエラ公権力がラッティ氏の要請を受け入れたことはなく、今回の訴えもどれほど効果があるのかは疑問である。

経 済**「Pampero イタリア酒造会社を買収される」**

ベネズエラのラム酒メーカー「Pampero」は、英国アルコール飲料卸「Diageo Europa」に買収され、子会社になっていた。

この「Diageo Europa」は、イタリアの酒造会社「Gruppo Montenegro」に「Pampero」を売却したと発表した。

「Diageo Europa」の John Kennedy 社長は、「ラム酒は今後成長が期待できる製品であり、Gruppo Montenegro はラム酒の成長と発展を進めるに当たり最も良い所有者だと考えている」

同取引の詳細は明らかにされていないが、「Yahoo Finance」によると近日中に取引が成立するようだ。

「TT ConocoPhillips の差し押さえ権を再認」

7月18日 トリニダードトバゴ裁判所は、「ConocoPhillips」のベネズエラ政府に対する訴訟要請を認め、同国で得るベネズエラの天然ガス収益を ConocoPhillips が差し押さえる権利を認めた。

本件については既に「[ベネズエラ・トゥデイ No.1070](#)」で報じた内容だが、ベネズエラ政府側がこの決定に対する異議申し立てを行わなかったことで正式に決定したことになるようだ。

トリニダードトバゴ (TT) は、ベネズエラと共同で両国海域に埋蔵される天然ガスの開発プロジェクトを進めており、OFAC は「Shell」と「NGC」にドラゴン油田、「BP」と「NGC」に Cocuina-Manakin 油田の開発ライセンスを発行した。

このプロジェクトにより PDVSA は一定の収入を得ることが保障されているが、今回の裁判所の判定により TT で生じた PDVSA の収入が ConocoPhillips の賠償金回収に充てられることになる。

ただし、PDVSA の収入が TT を介さずに PDVSA に直接入るとすれば、ConocoPhillips 側が差し押さえる収入もないということになるだろう。

「融資増加でコメ・トウモロコシ生産が拡大」

ロイター通信は、ベネズエラ国内で融資が増加している影響で、コメとトウモロコシの生産が増加していると報じた。

コメとトウモロコシの生産者は、融資で種子や肥料を購入しており、販売で得た収入を元にドル建てで融資を返済しているという。

ポルトゥゲサ州の300ヘクタールの土地でコメとトウモロコシを生産している農家は、銀行からの融資のおかげで生産を増やすことができているとポジティブな見解を示した。

2023年のコメとトウモロコシの生産量は前年比29%増の120万トン。増加しているが、過去のコメとトウモロコシの生産量は平均で340万トンだったため、過去と比べると生産量は少ないという。

コンサルタント会社「Globalscope」によると、ベネズエラの農業分野に対する融資額は約3.3億ドル。ただし、この融資の多くは輸出産業であるゴマやレンズ豆やマンゴーに充てられているようだ。

「大統領選を前にドル供給が増加」

大統領選を前に「ベネズエラ中央銀行（BCV）」による両替市場への外貨供給額が増加している。

24年7月中旬の時点でBCVによる外貨供給量が既に先月の総額を超えているという。

経済調査会社「Síntesis Financiera」によると、24年6月のBCVによる外貨供給額は4.2億ドル。しかし、7月は中旬時点で既に5.25億ドルの外貨を供給しているという。

「Síntesis Financiera」は、「大統領選を前にインフレを抑制するため外貨を積極的に投入し、為替レートのポリアル安進行を抑えている」と指摘した。

また、公共支出も増加しているようで、「Síntesis Financiera」によると、7月の公共支出は先月比35%増になるとの見通しを示した。

「アンソアテギ州でPDVSA ガスパイプが爆発」

レミヒオ・セバジヨス内務司法相は、アンソアテギ州のCantaura-Anaco間の道路でPDVSAのガスパイプの爆発が起きたと発表。この爆発により火災が発生したが、国軍・消防隊・警察・PDVSAらが駆け付け消火に成功したと説明した。

セバジヨス内務司法相の発表によると、この爆発・火災による負傷者は出ていない模様。「爆発の原因は調査中だが、サボタージュによるもの」との見方で捜査を進めているという。

ベネズエラでは、マンホールやパイプなどを盗み、鉄くずや銅くずとして売却する違法活動が横行しており、度々、重要部品が盗まれることで事故が起きている。

セバジヨス内務司法相の指摘するサボタージュというのは政治的なものではなく、違法業者による部品窃盗からくるものなのかもしれない。



@FuerzaDinamica Remigio Ceballos Ichaso
@CeballosIchaso1 · Seguir



Las labores de extinción del Sistema de Gestión de Riesgos en incendio de tubería de gas PDVSA, carretera Anaco Cantaura, producto de acciones de sabotaje, garantizó su extinción total. Se amplían las investigaciones para capturar a responsables y poner a orden de tribunales.



(写真) @CeballosIchaso1

以上